

#### 4. ジオセルの施工手順

|  |  |
|--|--|
| <p>①展開枠への取り付け<br/>専用の展開枠にジオセルを取り付けて展開する。</p>                         |  <p style="text-align: center; border: 1px solid red; padding: 2px;">展開枠</p> |
| <p>②ジオセルの据置<br/>展開枠を上にして、ジオセルを所定の位置に設置する。</p>                        |    |
| <p>③ジオセル端部の接続<br/>順次、延長方向に並べた後、端部を接続する（接続部材アトラキーまたはリベット）。</p>        |   |
| <p>④中詰材の充填<br/>ジオセルの内部に中詰材を充填する。展開枠を外した後、振動ローラー等を用いて充填材を十分に転圧する。</p> |    |
| <p>⑤前面セルの充填<br/>前面のセルの転圧には突き棒等を用いて、曲面形状を整えるように充填する。</p>              |    |

必要な高さまで①～⑤を繰り返す。前面に勾配をつける場合は、セットバックしてジオセルを積上げる。

※上記は、ジオウェブ(旭化成アドバンス)の施工手順を示したものです。他の製品の施工方法は、販売各社にお問い合わせください。

## 5. その他の効果

### (1) 堤脚保護及び緑化

階段状に積み上げるため、法留め・堤脚保護工としての効果が期待できる。ジオセルの天端高が高くなる場合には、敷設幅を変えて法留めとして必要な重量を確保することで対応する。また、前面や上部のセルに良質土を充填することで、表面の緑化を図ることができる。



写真-5.1 多段積みしたときの緑化の状況

### (2) 裏法尻の洗掘対策

「水防災意識社会再構築ビジョン」(平成27年12月11日、国土交通省水管理・国土保全局)では、危機管理型ハード対策が取り組みの一つとして挙げられている。いわゆる粘り強い構造の堤防の整備である。この一例として、裏法尻をブロック等で補強し、越流水による深掘れの進行を遅らせることで、決壊までの時間を稼ぐという方策が掲げられている(図-5.1 参照)。ジオセル工法は、河川護岸としての使用実績があり、アンカーピンによるセルの固定と中詰材によってその機能を果たしている。ジオセルを裏法尻に敷設すれば、越流水による洗掘対策の効果も期待できる。

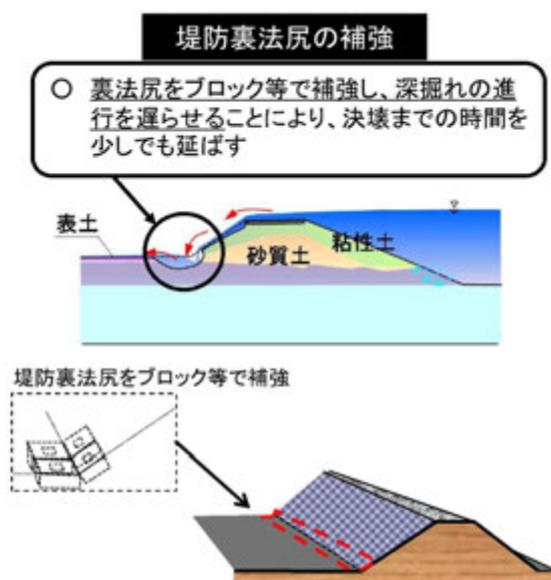


図-5.1 堤防裏法尻の補強(出典:「水防災意識社会 再構築ビジョン」、国土交通省、H27.12)